



合田大使のオシュ州・バトケン州出張

1月18～20日、合田大使はオシュ州及びバトケン州に出張しました。合田大使は、昨年9月にタジキスタンとの国境地帯において発生した衝突を受け、日本政府が国連世界食糧計画（WFP）及び国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）を通じて拠出した緊急無償資金協力の供与式典に出席するとともに、被害を受けた方々との対話を行いました。また大使は、日本政府の支援によりバトケン州に設立されたアプリコット精油工場の開設式典に出席しました。

今次出張にはバザルバエフ労働・社会保障・移民大臣、マムベトフ非常事態第一次官、イサコフ・バトケン州大統領全権副代表、中井 WFP キルギス代表兼事務所長及びショダー UNHCR 中央アジア代表が同行しました。

以下に供与式典での合田大使の挨拶の一部を掲載します。

「…本件資金協力は食糧、シェルター、非食糧援助物資、保護分野において人道支援を実施するものです。本件資金協力は、国際機関を通じた1カ国からの支援としては最大規模かつ最速の支援でありました。私は昨年10月にキルギスに着任しましたが、外交官としての最初の任務は、クルバエフ外務大臣に信任状の写しを手交するその場で、緊急無償資金協力の決定を通報することだったのです。

2011年3月に日本の東北地方で発生した東日本大震災のことを、多くの方が未だ鮮明に記憶しておられると思います。震災の発生直後、キルギス政府が特別機で2.5トンものミネラルウォーターを日本に届けてくださったことを、そして400人以上もの市民の方が日本大使館に弔問に訪れてくださったことを、日本国民は決して忘れません。

日本国民はキルギスの特別な友人であり、困難と痛みを皆さんともに分かち合いたいと思います。特筆すべきは、2022年は日本とキルギスの外交関係樹立30周年という記念すべき年でありました。これからは、悲しみよりも多くの喜びを分かち合うことができるよう願ってやみません。…」

